

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

January 2015

Écoutez Bien Vol.33 No.362

1

必読! 現実的な再生医療



山中めがね橋 ②

二代目レール橋のめがね橋



1937年6月1日、中央線立川―豊田間が複線開通する。複線化に伴って架け替えられためがね橋は、レールを使用したアーチ橋だった。2009年3月8日未明、寝静まる街にクレーン車の音が響く。レールアーチは撤去された。レールを調べてみると『BARROW STEEL 3MO 1888』という刻印。イングランドのバーロウ赤鉄鋼製鋼(株)製のレールだった。甲武鉄道の新宿―立川間開通が1889年4月11日。レールの歴史と鉄道の歴史に少なからぬ縁を感じる。初代めがね橋を支え続けた日野煉瓦もそうだったが、二代目めがね橋を80年間支え続け、立川の発展を後押ししたレールにも、120年余のものの言わぬ堅固な土台の力が宿っていた。

架け替えの工期は丸3年。終電が過ぎた夜中に作業を行う日々。寒い冬を3回越えて、三代目めがね橋、現在の柳を模した美しく広い橋が完成した。工事責任者に話を聞くと、この工事で一番大変だったのは「古い橋の撤去」だったという。設計図がないので橋の重さがわからない。撤去するためのクレーン車の準備をするには重さを確定しなければならなかった。電車の走らない時間帯に、橋を下から見て橋の長さを測る。ボルト1本まで数に入れて重さを計算する。橋の構造を調べて安全に撤去する方法を確定する。

準備されたのは当時日本に5台しかなかったというクレーン車〈ドイツ デマグ社製 AC1600J 500t吊クレーン〉だ。ウィーンという音がまだ寒い未明の空に響き、アーチ橋は取り外された。傍らにそっと置かれていたが、いつのまにかその姿は消え、工事はドンドン進んでいった。雨の降る日もあった。風の強い日も、真夏の暑さも越えて、橋は完成。2010年11月10日青く高い秋空の下、三代目めがね橋の歩道渡り初めが行われた。あれから4年、橋は新たな立川を支え続けている。



取り外されたアーチ橋 (2009年3月8日撮影)



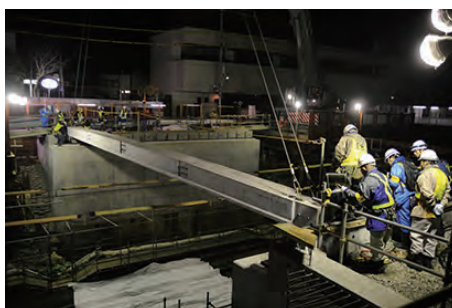
橋の取り外しに使われたクレーン車 (2009年3月8日撮影)



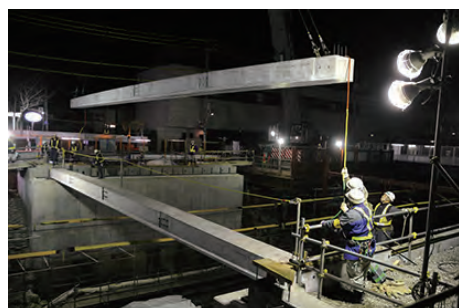
新しい橋げたを吊り上げて架けるために準備されたクレーン車 250t用 (2010年2月22日撮影)



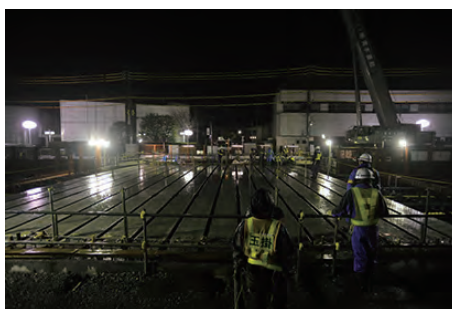
この夜から夜ごと橋げたを渡す工事が行われた (2010年2月22日撮影)



2010年2月23日未明 橋げたの1本目が渡された



1時間後 2本目が渡される



2010年2月27日 冷たい雨の作業になったが、橋の形ができあがった



2014年2月6日撮影

ここまで来た! 再生医療

患者の立場にたって治療する

10月21日(木)に行われた第14回応現院文化講演会。

終了後、再生治療のオーソリティ、田畑泰彦先生に少しお話をうかがうことができました。

——応現院文化講演会、ありがとうございます。

田畑 わかっていただけました？

——はい。よくわかりました。とっても早口でいらっしゃいましたが(笑)。関西弁でもありますから、聴講された方の中には初めは理解できない方もいらしたのではないかと思います。

田畑 僕はみなさんのレスポンスを聞きながら聴いてほしいことを繰り返してるんですね。聴衆を見ながらしゃべっています。だからいつの喋りも全部アドリブです。同じ内容でも、聴講する方に合わせて違うことを喋っています。

——アドリブの講演でしたか！

田畑 前の方の男性が最初は前のめりで聴いていたのだけれど、だんだんこう、コックリ始めたんですね。ああ、ここはちょっと笑い取らなあかんと思って(笑)。臨床の話をしたら、これは体のことやからみんなパッと乗ってきます。——講演の前半は先生の自己紹介で、最初は「この方はすごい人なんだなあ」と…。頭がいいんだなあという印象で。

田畑 こいつは自分の自慢しに来よったんかという雰囲気があったから、これはあかんと思っていましたが(笑)。

——私たちに話を合わせてくださった(笑)。

田畑 言ったでしょ。僕はベタ折りですから。ベタ折りだから今があるんですよ。前半はね、これまでの僕自身の歩みが、今の活動にすべてが必要やっちゃうことをわかってもらわんといけないので。

——なぜ工学博士で医学博士で薬学博士で、さらに理学部の勉強もされてきたかということ、

すごいな～と畏れいりながらも、よくわかりました。

田畑 わかったでしょ？

——はい。それと、再生医療の認識がすっかり変わりました。

田畑 変わったでしょ？

——はい。より希望が持てたというか。再生治療のことがよくわかりました。

田畑 わかったでしょ？

——これまでは「再生医療=IPS細胞」でした。でも、再生治療とそれを支える再生研究も再生医療だということ、自然治癒力を高めて細胞を元気にさせて病気を治す再生治療の症例が、いわゆる細胞を用いた再生医療に比べて圧倒的に多いと聞いて本当に驚きました。

田畑 患者さんを治してきた数が千人近い数字になって、ようやく僕らの名前が認知されてきました。患者さんを治せばそれはみんなわかってきますよね。

——ええ。新鮮な感動でした。しかもお話に出てきた病名が身近なもので興味津津。人工血管や肝臓、腎臓、心臓といった人工臓器の話とか、乳がんとか白内障や加齢性黄斑変性症、糖尿病、髪の毛の話まで。先生ご自身がお若いから、注射すると髪の毛がニョキニョキ生えてくるハイドロゲルをお使いなんじゃないかと思っちゃいました(笑)。

田畑 そう思うでしょ？そう思われたということは、僕のしゃべり方がよかったということですね。

——髪の毛増えたらいいなあとすっかり自分事として聴いていました。ついでにシワものびた

らなあと(笑)。

田畑 だから、誤解しないでください。これはアンチエイジングやないって言うたでしょう(笑)。でもね、医療だとみんな自分のことだから気になるんですよ。僕は夢物語ばかりではないということも言いたかったんです。加えて、病名が同じでも効かないこともあると言いたでしょ？ 真の現状を知ってもらいたかったんです。

——はい。でも結局最後には元気をもらったような気がします。見せてくださった数々の治療例の写真も、さらにそれが誰にでもできる簡単なことだという話、ドラッグデリバリーシステムのことも納得で、本当に元気をもらいました。

田畑 それはよかった。そういうオチですから。——歯槽膿漏なんて諦めてますよね。それが細胞に餌を与えるだけで歯の周りの骨も伸びて歯茎が上ってくるなんて超驚きです。しかもそれを工場で創れるなんてすごいいいじゃん！と思いました。

田畑 それがものすごく大事なことなんです。ところが、大学の先生の多くは、自分が新しいことをやれば、後はそれはどこかで興味をもち、それを基に商品を作ってもらえるだろうと簡単に思うんですね。

——ワクチンなども症例が少ないと、どんなに必要でも企業が興味をもたないから作れないと聞いたことがあります。

田畑 薬も工場で創れるんですよ。薬の基礎研究は大学でやるのがいいという先生もいるけれど、患者さんの数が少なければなんぼいい

田畑泰彦氏

1959年大阪府生まれ。81年京都大学工学部高分子化学科卒業。83年同大学大学院工学研究科博士前期課程高分子化学専攻修了。91～92年米国マサチューセッツ工科大学、米国ハーバード大学医学部外科客員研究員。96年生体医療工学研究センター助教授。2000年より現職。工学博士、医学博士、薬学博士の3つの博士号を持つ。著書に『絵で見てわかるナノDDS』『患者まで届いている再生医療誘導治療』など多数。

薬でも企業的に見て興味はないですよ。会社は営利団体やからね。従業員を雇わないかんから。そこのところ、企業の方向性をわからない大学の先生が多いんです。

だから、僕はさっき講演の中で言うたように、患者さんの数がひとりふたりでも、企業とは関係なく患者さんを僕は治すと。大学人としてやれる方法はあると。

——はい。

田畑 会社の場合はね、患者さんの数がないと開発には踏み出さへん。採算とれんから。だから僕は大学病院で倫理委員会から許可を取り、困っている患者さんの治療を進めました。やりましたよって言いましたよね。——先生が持っている寄付金を、中小企業に渡し一緒に商品化していく。

田畑 なんぼいいもんでもね、会社が興味なかったら。商品化ができず、一般に人がそれを使えないですよ。なんぼ大学で頑張って賞とってもね、世の中に還元できないんですよ。わかりますか？ それだけでは商品化できないからです。そのあたりのことを大学の先生は理解しないとかんと思いますよ。僕が大学人だけやったら、そのあたりのしくみは全然わからないですよ。しかし経験してきたからわかるんです。

——大学で医学、薬学、工学、理学の勉強をされただけでなくて、その組織の体質も理解されて、さらにその研究成果を世の中へ還元するために企業との合同研究、連携をされる。特許、ビジネス、商品化とおっしゃっていらした。

田畑 半分大学人で半分ビジネスマンって、講演の中で言いましたよね(笑)。世の中に還元するということを、ものすごく親から教えられた。——先生のバイタリティの基はそこですか？

田畑 やっぱり世の中に還元したいという、患者さんを治したいという気持ちですね。好奇心です。こう言われたことがあります。先生の目的はなんですか。目的、ないんですよ。目的あったらすぐ終わるんで。目的ないのが目的です。どんどんやっていく。

——先生はご自分のような存在の後継者を育てていらっしゃるんですか？

田畑 僕はそういう人材を作りたい。

——なかなか先生のようにはいかないと思いますが、先生が小さい頃本を読まなかったって本当ですか？

田畑 全然読まなかった。国語もめちゃくちゃ

ですよ。作文力もないし。だから英語が始まった時、中学の先生に僕は国語力がないから英語はだめやって言われた。それは先生が僕の性格を知っているから、そう言うとなににそって頑張るから言ったんだと想像します。ホントに僕は小学生の時、算数がわからなくてね、分数ができなくて落ちこぼれてたんですよ。だから僕の父親は中学受験させてね、エレベーター式に大学まで出してね、インテリア関係の事業、家を継がそうとしていたんです。ところがそれも落ちた(笑)。うちの息子、ふたりいるんですけど、おじいちゃんが「お前のとこのお父さん、どこ落ちたか知ってるか？」って。それでうちの子どもが「なんや、そんなとこ落ちたんか」って(笑)。だから、50歳になったら勝負しようって言ってるんですよ。

僕が言うてたのはなまじっか嘘じゃなくてね、みんな、頑張ればできるんちゃうかなと思うんです。

——うーん、でもちょっと、それは…。工学博士で医学博士で薬学博士で、理学部も勉強して、しかも京都大学でって、それは無理ですよ。でもそういう生き方が許される環境ってすばらしいですね。

田畑 一番大きいのはやっぱり両親やと思います。だって、あんなに自由に勉強させてもらたんですから。だから大学に入って勉強する時は両親に感謝。次は恩師と家族ですよ。私は親父を一番尊敬してるんです。親父はすごい人でした。もう亡くなりましたけど。親父のようになるのはちょっと無理ですね。

——先生が尊敬されるのですから、お父様は相当な方でいらしたんですね。

田畑 今の僕は尊敬に値する人間とは違いますよ。わからなかったらとことんわかりたい、やりたい、そこが違うだけやと思います。どんなことしても人的あるいは物質的な繋がりをつけていきますから。一見さんでも僕はどんどん連絡していきます。向こうの人がうまく乗らなかつたらそれは仕方ないです。また別の人と繋がりつければいいでしょ。どんなことでも自分ひと

りではできないんですよ。自分ではできない。ネットワークがなければ何も。絶対できない。——接着剤のように先生が中心になって、講演の中では「通訳している」っておっしゃってましたね。いろんな分野の人の言葉を動物園の園長になって通訳している、「犬語かいな、猫と繋げや」って(笑)。

田畑 そうですよ。僕のネットワークで僕が根回ししたから絶対やれとかね。大企業はほっといても自分で動けるのでいいけど、中小企業は違う。例えば、新しいことをするにも自転車操業やからね、お金ないでしょ？ お陰様で僕は寄付金もろてるので、それは自由に使えるでしょ。そのお金は、普通は学生を海外や学会に送ったりする。生きたお金ちゅうかな、商売人は言うんですよ「生きたお金」って。お金張るとこにはパンと張ります。ビジネスやる時にもね。それは自分の意気込みの1つの印ですよ。この辺が、僕の友達らと違うと思いますよ。大学の先生で学者の家系で育ってきた人、学者の家の人とはちょっと感覚が違うと思います。うちは商売をやっていたのでね、自分には生まれながらの学者のネットワークはありません。ネットワーク作りからその維持、何から何まで自分でやらな、仕方ないでしょ。これからも大学や会社と組んで、利他の心で患者さんを何千人も治していきますよ。

懐かしい、街並み

昭和30年代の曙町をジオラマで再現

国営昭和記念公園 花みどり文化センターに
平成26年12月7日まで展示されていたジオラマです。
ご覧になった方もなれなかった方も、どうぞゆっくりご覧ください。

中央のお菓子屋さん、その後の目の出屋さん。左の赤い屋根が澤田魚店



銀座通りの西方向は少しデフォルメされているが、
当時はこんな風だったのかもしれない。



銀座通り入口付近
北口に最も近い場所で、稲毛屋の文字がみえる。現在の「いなげや」だ。



国立立川病院の道路を挟んだ南側にあったルーテル教会

前月号掲載の小川優さんが創ったジオラマです。昭和37年から38年ごろの銀座通り。写真や地図と一緒に当時の立川に思いを馳せて。
この頃をご存知の方には懐かしく、ご存知ない方にはきっと新鮮な興味を持たせてくれる写真です。

銀座通りは昭和39年1月4日、米軍基地に乗り入れるタンク車の事故で大火災が発生。南側の10件が燃えてしまいました。その後、
そこに建てられたのが第一デパートです。第一デパートは平成24年5月15日に完全閉店。46年の歴史を閉じましたが、振り返れば、こ
の銀座通りが、「サブカルの街 立川」の原点なのかもしれません。



立川駅西側上空からの眺め

マルトミと見える百貨店は昭和20年代は伊勢丹だった。銀座通りの南側商店街は昭和39年1月4日の火災で10軒全焼。その跡に第一デパートが建設される。

中央線と青梅線が交差するところ



青梅線のホーム。



当時は上空をアメリカの飛行機がよく飛んでいた。



このジオラマの中で唯一人物が特定されている人形。コトブキヤの
左側に子供が2人あり、1人は柵に登っている。これは当時ここで
遊んでよく叱られていた現コトブキヤ社長、清水一行さん。



隙間から四つ角飯店が覗いている。
先ごろ復活、営業再開した。

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 曙町・羽衣町・錦町 のお店です。	
曙町	菊川園 ルミネ店……………526-1688 たましん すまいるプラザ立川 0120-667-646 オリオン書房 ルミネ立川店 527-2311 みずほ銀行 立川支店……………524-3121 コスメドール 辰巳屋……………524-6051 エミリーフローグ 本店……………527-1138 カフェ クリムト……………526-3030 黒毛和牛専門店 焼肉 FUKI 523-0166 宮地楽器 MUSIC JOY 立川北 527-6888 TAKE THE HONEY スイーツ 523-8200 三井住友銀行 立川支店……………522-2151 レストラン サヴィニ……………525-1662 立川献血ルーム……………527-1140 アートルーム 新紀元……………528-6952 MOTHERS ORIENTAL 528-0855 たましん 本店……………526-7700 たましんギャラリー……………526-7717 和食どころ 若草茶屋……………526-0010 三上鯉節店……………522-3259 エフエムたちかわ……………524-0844 時計・メガネ 水晶堂……………523-4548 輸入文具 喫煙具 ホワイトハウス 525-8558 BASE26……………548-4326 はしや……………528-2338 ラ・フランス……………529-5522 ビックカメラ 立川店……………548-1111 Charcoal Dining るもん 527-3022 酒亭 玉河……………522-2654 三菱東京 UFJ 銀行 立川支店 524-4121 立川グランドホテル……………525-1405 カフェ アバン……………527-4479 手打ちそば しえ もと……………529-5468 シンパン……………522-6211 天ぶら わかやま……………525-0222 多摩水族館……………524-0288 井筒屋……………522-4433 すし 魚正……………522-3437 園部肉店……………522-2901 Cut Studio SOFIA……………528-3241 立川市女性総合センター アイム 528-6801 エミリーフローグ 立川高島屋店 526-9788 立川高島屋 ギフトサロン……………525-2111 オリオン書房 ノルテ店……………522-1231 JTB 法人東京 西東京支店 521-5550/5585 Pérlico……………526-1220
	緑縁専門店 プリムベール……………528-6789 たましん 東立川支店……………524-0611 ギリシャレストラン SHUPOUL 519-3923 林歯科医院……………522-5657 中島豆腐店……………522-5732 新鮮野菜・惣菜 立川商店……………522-3565 本・事務用品 泰明堂……………522-3353 本と文具 ないとう……………522-3677 赤松タバコ店……………524-7852 まごころ銘茶 狭山園……………527-0146 美容室 ヒロイン紅……………526-0018 お好み焼ともんじゃ焼 こけし 526-1267
	めがね・つけい・補聴器 カワハラ 525-4427 鳥料理 くし秀……………522-7692 寿司勝……………522-4874

jorakugajo

真如苑提供番組「常楽我淨」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我淨はスマートフォンアプリ「ivy」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

Rize Kitchen & School Space

——起業してみたいけど…とお考えの方、朗報です！

2014年12月オープンの「レンタルキッチン&スクールスペース ライズ」は、柴崎町2丁目、立川駅南口から徒歩で3分の場所にあります。レンタルキッチンスペースとスクールスペースを兼ね備えたシェアスクールスペース。ちょっとわかりにくいかもしれませんが、「カフェレストランを開いてみたいな〜」と思っている方や、「自宅でお菓子の教室を開いているんだけど、自宅だから生徒さん集めに限界があるわ〜」という方。あなたのお名前で各種講座や教室が開けます。「がんばった分だけあなたの力になる」シェア空間です。詳しくは以下へお問合せください。

http://rapport-rise.com/rise/
TEL 042-512-8880 〒190-0023 立川市柴崎町2-2-23 松村ビル2F



市立新生小学校3年生の社会科見学

10月16日（木）、新生小学校の3年生が社会科見学で、市内にある立飛ホールディングスを訪れました。児童が見学したのは平成26年4月に一般公開した復元飛行機の置いてある一画。新生小学校の池田泰章校長にうかがいました。「私も立川生まれの立川育ちですが、ここで戦闘機『隼』が造られていたなんて知らなかったですからね。感動しましたよ。子供たちも見たことない本物の飛行機（復元飛行機）が見られて、大喜びでした。やっぱり夢がありますからね。立飛さんが子供にもわかりやすい資料を用意してくださり、トンボのキャラクターを使ったクリアファイルや15cmの定規をくださったのですが、この15cmというのがまたとてもいいんです。子供たちは飛行機の他にも、倉庫を出入りするトラックにとっても興味を示し、両サイドが鳥の羽のように開くウィングボディのトラックに歓声を上げていました。3年生の市内めぐりはバス代がかからないので今回は3年生でしたが、本当は6年生に見せたい内容でした」とおっしゃっていました。

立飛ホールディングスでは、今後もこうした社会科見学を受け入れていく方針だそうです。

えくてびあんも表彰されました

——広報業務協力功労賞

11月12日（水）立川グランドホテルで、立川消防署、立川・国立防火防災協会、立川・国立防火管理研究会、立川・国立災害予防協会による〈防火のつどい〉が行われ、第一部で多くの団体や個人が表彰されました。今年はえくてびあんも、地域社会の安心・安全のために、防火に関する広報を積極的に推進した功労で、署長感謝状を頂戴しました。今後も安全安心な街づくりに寄与できるよう努力してまいります。

第二部は国立音楽大学室内楽コンサートで、国立音楽大学専門課程室内楽コースのオーディションに合格したRêver Strings Quartetの演奏を聴かせていただきました。日常の喧騒を離れたすてきな時間——こんなミニコンサートに出会えるのも立川ならではの、ですね！

今年もイルミネーション！

この時期の巷の話題はやっぱりイルミネーション。夜の住宅地を歩けば個々のお宅の電飾も目を楽しませてくれますが、豆電球で飾るツリーからすっかりLEDになった昨今、立川駅南口と北口、それに昭和記念公園のトライアングルイルミネーションがとでもきれいです。イルミネーションサイトでは電飾数による検索もできて、やはり今年はLED球も注目の的。多摩センターのパルテノン通りでは50万個、相模湖アミューズメントパークでは500万個のLED球を使っているそうです。一方、圧倒的な広さを活かした昭和記念公園では、見るだけのイルミネーションから体験できるイルミネーションへをテーマに、レーザー光線に音楽も併用、どんな人も楽しめるすてきな夜を演出しています。光の国の主人公になった気分が味わえそうです。

【立川トライアングル イルミネーション】

立川駅北口 Tachikawa 燦爛 Illumination 2015年1月4日まで
立川駅南口 たちかわ櫺イルミネーション 2015年1月31日まで
国営昭和記念公園 Winter Vista Illumination 2014年12月25日まで



街の広告塔とひとつになったイルミネーションも立川らしい！

今年は『ご注文はうさぎですか』の関連グッズも登場。

今年も楽市にぎやかに！

11月8日（土）と9日（日）、みどりの文化ゾーンで楽市が開催されました。国際色も豊かに、立川ならではの物販もあり、ちょっとお天気には悩まされた時間帯もありましたが、多くの人でにぎわいました。11月10日（月）から走行するウドラのラッピング立川バス。花みどり文化センター内にはアニメのコーナーもあって、新しい立川の顔もすっかり市民権を得たようです。

豊田車両センターまつり

11月8日（土）、豊田車両センターまつり（主催：JR東日本八王子支社、後援：日野市）が中央線豊田駅に近い豊田車両センターで開催されました。今年が3回目のこのイベントは入場無料で、日頃撮れない写真が撮れるとあって毎年鉄道ファンが大集合。開場は10時の予定でしたが長い行列に15分繰り上げてのオープン、14時半の締め切りまでに5340人が来場しました。ここでしか売っていないお弁当やおにぎりも完売。小学生の鉄道ファンが列車を見て、「うわっ！神だよ！神！」と言っていたのが印象的でした。

ホテルでサイエンスカフェ

極地研の街中サイエンスカフェ、2015年最初の回は1月17日（土）ワシントンホテル カフェ ドパリで行われます。講師は、テレビ出演も多く著書『ペンギンが教えてくれた物理の話』で毎日出版文化賞を受賞した時の人 渡辺佑基先生です。

今回は事前申し込みが必要です。詳しくは極地研のHPをご覧ください。

おじゃましま〜す！——[33]

酒歩 たから

諏訪通り商店街にあります。オープンからちょうど7年経ったそうです。カウンターとちょっとテーブル席がありますが、常連さんはみんなカウンターに座っています。「おかみさん」と呼んだらまだかわいそうなくらい若い女性のお店です。なんとお呼びしましょうか。寒い時期だから何か温



おばあちゃんのオムレツ ネギ入りの甘辛たまご焼き。懐かしい香りや味です。

かいものでお勧めは？とかがうと「困っちゃうな〜。私、脱サラなんです。お料理が得意なわけじゃないし…」とおっしゃいますが、食べればわかる人ならわかります。調味料が違います。みりんや砂糖、油など、気を付けている人には嬉しいですね。でもあえてそれを言わないので、わからない人はわからないまま。気取らない、さりげない、売り込まない。それがいいんですね、きっと。定番もののメニュー以外に、その日のお料理が壁に貼ってあります。居心地のよいカウンターで他のお客様の話を聞くともなく聞いていると、いつのまにか自分も仲間入り。仕事や年齢を越えた友達の輪が広がります。「おもしろいお店ですね〜」と言うと、「ほんとにおもしろい店だよ」とお客様。「おもしろい」は褒め言葉。実は「おいしくて居心地がいいお店」でした。



ウドラとラッピングバス



鉄道ファンにはたまらないですね。

表紙の人

福島克巳さん、^{たけつぐ}勇世さん、巧さん

総合インテリアの一心堂さんは昭和3年の創業以来、ずっと同じ場所（柴崎町2丁目）で営業されています。現在作業場は羽衣町にあり、今回の撮影も羽衣町でさせていただきました。



お宅に金屏風があるなんて、さすが一心堂さん！お正月らしく、おめでたい金屏風を立てての撮影となりました。障子や襖、掛け軸などの表具もされていますが、住宅事情の変化で今は壁紙や床などの内装工事がメインです。一心堂さんをお訪ねすると、かわいいうんちゃんのお出迎え。不幸な境遇の犬を引き取ってお世話されているのだとか。シェットランドだと言われて引き取ったらコリーになっちゃったこともあったと笑っていらっしゃいますが、なかなかできないことです。お話される克巳さん、ツヤツヤのいいお声！やっぱり詩吟の先生は違いますね。

かたこと

◆新年あけましておめでとうございます。2015年最初の「えくてびあん1月号」をお届けいたします。◆患者さんの立場に立って治療し続ける、田畑泰彦先生のお話を聴き、「利他の心で…」との言葉が心に響きました。◆2月から「おうちでおいしいシリーズ」の第3弾、和風だし・豆につづき、今回は曙町の三上鯉節店 三上康子さんに乾物を使ったレシピをご紹介します。旨味や栄養成分のぎゅっと詰まった乾物からどんな料理がうまれるのか今からワクワクしています。◆昨年カメラを購入し、立川の風景を撮るようになりました。街中に咲く花、空の移り変わり、木漏れ日を一度立ち止まって見るようになりました。花の色や夕日の美しさなど、いつの間にか見過ごしてきたことがたくさんあったと気づかされました。これからも一瞬一瞬の風景や人との出会いを大切にしていきたいです。◆本年もえくてびあんは「立川と語ろう 立川に生きよう」をテーマに、人と人との繋がりを大切に、立川の様々な表情をお伝えしてまいりたいと思います。姉妹サイト『多摩てばこネット』と共にどうぞよろしく願いいたします。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑨

1月号 第33巻 通巻362号

平成27年1月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL http://www.tamatebakonet.jp
URL http://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
印刷 三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。



探しています——

『木村』さん、ご存じないですか？

えくてびあんの特別号『たちかわ今昔 昭和の柴崎町』（10月1日発行）をご覧になった方からご連絡をいただきました。ご自宅におうかがいすると、写真のご本を見せてくださいました。毛筆で和紙に手書きの一文一文字がとても几帳面な印象を受ける本です。目次を見ると著者ご自身の体験などを踏まえた哲学書のようにもあります。

幸町の岩崎吉一さんのお父様が、この本の著者である『木村』さんから預かったまま何十年も経ってしまったのだそうですが、返したくても岩崎さんには『木村』さんがどなたかわからない。あちらこちら古い資料を探して尋ね歩いたそうですが、『木村』さんにたどり着くことはできなかったそうです。『たちかわ今昔 昭和の柴崎町』の4ページに『須藤生花店』の表示があります。『木村』さんはこの南側辺りにお住いの男性で、とても上品で立派な方だったとか。まだ子どもの岩崎吉一さんにブリキの貯金箱をくれたとおっしゃっていました。

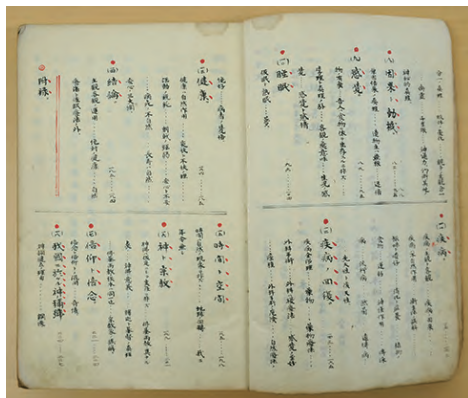
昭和20年代の柴崎町をご存知の皆さま、もしこの『木村』さんご自身をあるいは関連することをご存知でしたら、どうぞえくてびあんまでご一報ください。ご連絡をお待ちしておりますので、よろしくお願い申し上げます。



岩崎吉一さん



『木村』さんが書いた本の表紙
和綴になっています



本の目次

第一小学校放課後わくわくクラブが表彰されました

立川市では全小学校で『放課後子ども教室』を実施しています。その1つ、第一小学校の『一小わくわくクラブ』が、その長年の功績を認められ東京都教育委員会から表彰されました。放課後の見守り日数は、平成25年度、実に年235日。参加児童数、延べ7288人、見守りの大人も延べ1278人という数字には驚かされます。地域の皆さんが協力して子どもたちを育てているんですね！これからも、皆さんお元気で頑張ってください。



一小わくわくクラブのみなさん